

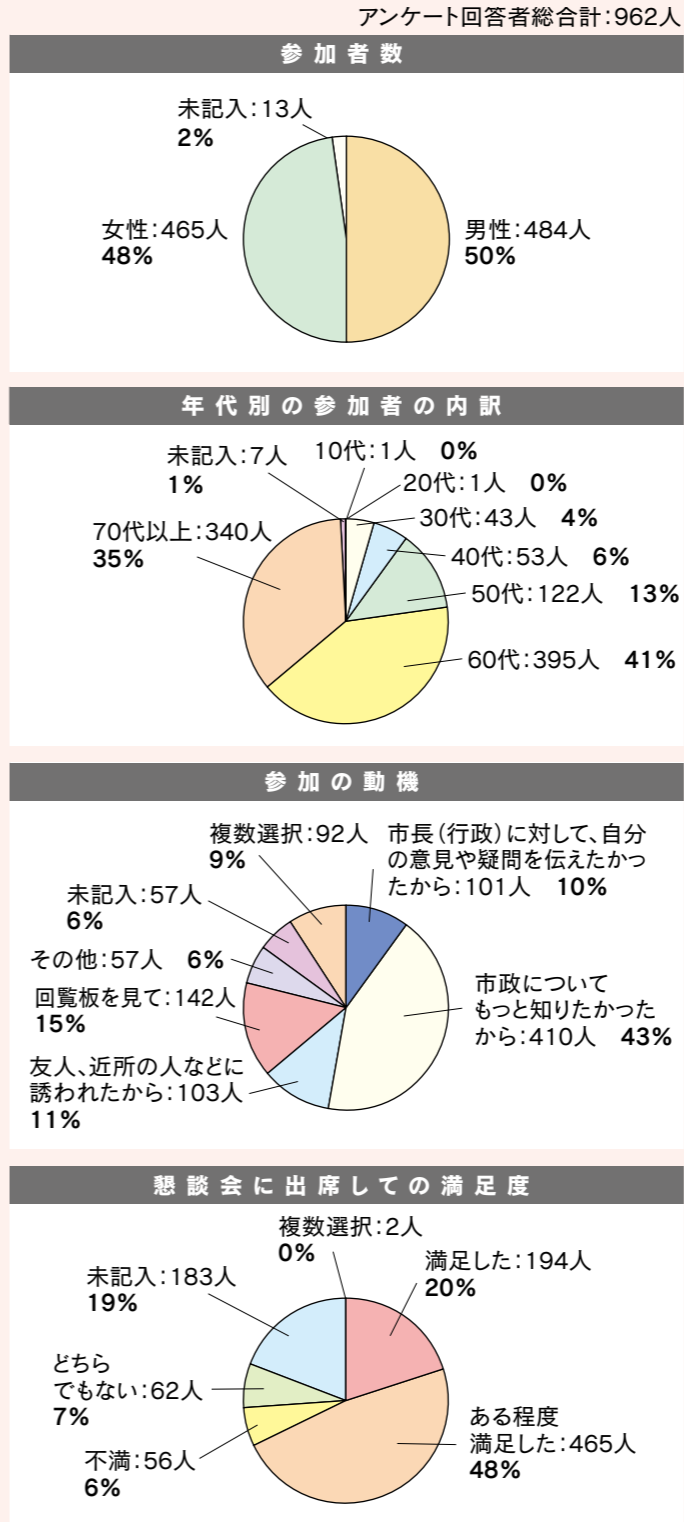
# 「市長と語り合う未来の太宰府・ふれあい懇談会」について

平成20年1月の北谷区を皮切りに、各地域の公民館などで開催してきた「市長と語り合う未来の太宰府・ふれあい懇談会」(以下懇談会)が、8月3日に開催された五条区で各行政区を一巡しました。懇談会では、「協働のまちづくり」をサブテーマとして、市全般にかかる提言や地域が抱える問題などを中心に意見交換しました。前回の中間報告(平成21年広報だざいふ7月号)に引き続き、参加の状況や今までに出席された主な意見などについて紹介します。



行政区毎の参加者数

開催月	行政区名	参加人数
H20 1月	北谷	32人
	内山	14人
	高雄	58人
2月	水城	22人
	坂本	38人
4月	都府楼	42人
	大佐野	20人
5月	湯の谷西	31人
	秋山	23人
7月	緑台	29人
	水城台	48人
8月	観世音寺	28人
	向佐野	37人
10月	大佐野台	37人
	連歌屋	21人
11月	五条台	15人
	梅香苑	29人
H21 1月	水城ヶ丘	37人
	桜町	22人
2月	吉松	53人
	長浦台	36人
4月	三条	20人
	東ヶ丘	38人
5月	梅ヶ丘	29人
	国分	24人
7月	榎	25人
	青葉台	40人
8月	三条台	44人
	星ヶ丘	35人
10月	高雄台	20人
	榎寺	24人
11月	つつじヶ丘	35人
	松川	40人
H22 1月	芝原	34人
	ひまわり台	22人
2月	馬場	8人
	通古賀	9人
4月	湯の谷	33人
	新町・大町	30人
5月	東観世	33人
	白川	23人
7月	五条西	36人
	五条	75人
8月	合計	1,349人



【アンケート結果から】参加者は、60代以上が全体の70%以上を占めました。参加の動機は、「市政についてもっと知りたかった」という人が43%でトップです。懇談会に出席した人の満足度は、「満足した」「ある程度満足した」を合わせると68%ほどになります。

## 主な意見提言

懇談会では、さまざまな意見、提言がなされました。寄せられた意見、提言のうち、現地確認が必要な場合は直ぐに行うなどした結果、既に解決した事項もあります。しかしながら、解決に至るまでに時間を要する事案も多数ありました。主な意見、提言の進捗状況などについて一部紹介します。

### 1 市の財政状況等に関する質問、提言

本市の借金(市債)残高は、平成16年度末の約252億円をピークにその後減少し、平成21年度末現在では約205億円となっています(普通会計ベース)。これまで本市の取り組んできた基盤整備事業がある程度終了し、新たな借入額が減少するなか、繰上償還を行うなどの対応により、償還(返済)が順調に進んできたことが要因です。また市債残高のなかには、償還時に95%の国・県補助がある史跡地公有化事業分が40億円ほどあるほか、償還額が後年度地方交付税に算入される優良起債も多く含まれています。今後身長の丈にあつた財政運営に努め、適正な市債発行、市債残高の減少に努め、歳出に対する公債費

(単位:百万円)

年度	市債残高	対前年度
平成17年度末	24,731	▲439
平成18年度末	23,816	▲915
平成19年度末	21,895	▲1,921
平成20年度末	20,917	▲978
平成21年度末	20,525	▲392

### 観光資源、史跡地の活用

市では、「歴史とみどり豊かな文化のまち」を将来像に掲げ、太宰府ならではの観光資源などを活かして、市が活性化しようなまちづくりを目指しています。その一つとして「まるごと博物館(まちぐるみ歴史公園)」があり、市民一人ひとりが地域に対する誇りと愛着を持って住み続けることができ、また市域どこでも歴史や文化を感じられるまちを目指しています。

それらを実現するための手法として、市民の皆さんが市内散策を楽しめるよう岩屋城跡の眺望箇所の整備や歴史の散歩道、九州自然歩道の修理を行うなど、史跡地の整備活用を順次行っています。さらに観光客の流れを通過型から滞在型に変えていくことで、市の収入増にもつなげていきます。



▲九州自然歩道

### 2 一定の取り組みが実施された事項

#### 水道料金が低い

懇談会では、「太宰府市は水道料金が低い」という意見が多く寄せられました。これまでも民間委託の導入や人員削減等の経費削減を行うことで、使用水量20m以下の一家庭用の水道料金を昭和59年から25年間据え置き、平成20年度末で県内56団体中高い方から15番目という状況でした。10月からは、

### 議員定数が多い

議員定数の見直しについても、経費削減の観点から多くの提言がありました。議員定数については、議会だより124号でもお知らせしましたが、今年6月議会で、現行の議員定数について20人から2人削減し、18人とする事が議決されました。この議員定数は、次回の一般選挙(来年4月に執行される統一地方選挙)から適用されます。

### 子育て支援の充実

若い世代の参加者は少なかったものの、通学路の安全や学童保育所の時間延長などについても提言がありました。広報だざいふ7月号でもお知らせしましたが、学童保育所の時間延長は7月1日から実施されています。また太宰府西小学校に学童保育所が新設され、2学期から供用開始します。一方保育所についても、国分地区に民間保育所を新設し、平成23年4月から利用開始されます。

### 市公式ホームページが見づらい

市の公式ホームページについては、以前から検索しづらいなどの意見が多く寄せられていました。本年4月からトップページのデザインリニューアルを行うとともに、内容の充実を図っています。懇談会の会議録やアンケート結果もホームページ上で公開しています。ご参照ください。

## 通級指導教室の設置について

通級指導教室は、ことば・コミュニケーション・行動面で学習や生活において困っている子どもたちのために、来室による個別の指導で支援する教室です。通級指導教室の設置要望により、今年度6月から水城西小学校に2学級と太宰府小学校、太宰府中学校にそれぞれ1学級開設しました。行動面や情緒面の課題について、できるだけ早い時期に解消・軽減し、伸び伸び成長していけるように支援します。

## 3 今後も継続して検討・実施する事項

### 道路の舗装状況が悪い。側溝の蓋の設置

現在、地域再生基盤強化（道整備交付金）事業の採択を受け、平成19～23年度の5年間で緊急度が高い路線の整備を計画的に実施しています。また生活道路の舗装、側溝等の整備についても、各自治会からの要望を受け、地元自治会と協議しながら、整備順位を決めて行っています。

### コミュニティ無線と災害時の対応

コミュニティ無線について「聞こえにくい」、また反対に「うるさい」との意見も寄せられました。コミュニティ無線は、平成15年の大災害を体験し、市民に情報を的確に伝える重要性を認識し、平成18年度に市域全体に設置し、平成19年度から開局、運用しています。本年度もスピーカーを増設するための予算を約1千万円計上しています。今後も計画的に聞こえにくい箇所に対応を行います。

災害発生時の二次避難場所となる市内小中学校の体育館については、全て耐震化工事が完了しました。一次避難場所となる地区公民館については、公民館に避難するまでの経路や公民館そのものの危険性に

ついでに指摘もありました。避難場所については、現在指定している一次、二次避難場所以外についても身近にある大学などを利用できるように検討します。

### まほろば号の乗継制度が不便

平成20年度のダイヤ改正で、定期運行を目指し西鉄都府楼前駅での乗継制度を実施しました。しかしながら不便になったという意見が多く寄せられました。前年度のダイヤ改正では、乗継時間の調整を行い、乗継の強化を行いました。これまでも「まほろば号」の現在位置が、携帯電話やパソコンを利用して検索できるサービスを実施していましたが、本年度からはICエコまほろばシステムを導入したことで、その情報をバス停でリアルタイムに表示し、まほろば号の運行状況が一目で分かるようになりました。これにより西鉄都府楼前駅バス停での乗継についても、到着便の表示も行うことで、後続便の発に対応できるようになりました。さらに、路線の新設についても一部調査を開始しています。お出かけの際は、まほろば号の利用をお願いします。



▲バス現在地情報板

### 自治会制度の導入の問題点について

今回のサブテーマであった「協働のまちづくり」についても多数の意見が寄せられました。前年度から、市長の委嘱を受けた「区長」の制度を廃止し、行政と自治会はパートナーになって、対等な立場で、まちづくりを推進しています。平成20年度までは区長報酬として直接支払っていましたが、前年度からは自治会と校区協議会へ補助金として配分し、その用途については、自治会や校区協議会の中で決定し

ています。今後も行政は後方支援しながら自治会長をはじめとする住民の皆さんと協力し、よりよい制度構築を目指します。

### 総合体育館の建設

現在市の体育館は、体育センターと南体育館の小規模の体育館のみで、市内外との交流試合の開催などに苦慮しています。1月には総合体育館建設の陳情もなされ、本年度、基本構想関係費として予算計上し、専門的な調査研究を行っています。

### JR太宰府駅の実現に向けて

JR太宰府駅の新設に向けての意見は、太宰府西校区のみならず質問がなされました。当初JR太宰府駅は、JR九州による待避線の新設と同時に検討がなされていましたが、待避線設置のみ先行しました。

JR太宰府駅については、平成20年度末に一定の方向性を打ち出すように説明していましたが、現段階では次のとおり進めています。

- 1) 「駅は必要」との認識に立ち、道路アクセスなど周辺のまちづくり整備を含めて検討を行う。
- 2) 周辺整備のための佐野東地区の区画整理については、地権者の意見を聞く懇話会を立ち上げる。

### おわりに

地区公民館の建て替え、雨水排水施設の不備などのインフラ整備について、またソフト面では高齢化が進む団地内での高齢者への支援など、地域に特化する意見も多く寄せられました。市が課題として捉えていた問題のほか、提言により初めて認識した問題もありました。解決が必要な課題で、時間を要するものについては、なるべく早い解決を目指します。

今後も市民の皆さんのご協力をお願いします。